

ハムスターの遺伝子に残る本能(採餌)行動の観察

山形県立上山明新館高等学校 鹿野秀司

ハムスターについての記述は営巣行動の説明に書いたとおりです。

イナゴ(ワタリバッタ)は砂漠地方に一時的に大発生する貴重な蛋白源 です。いつ襲来するかわかりませんが、その機会に怯えることなく大量のイナゴを捕獲し、腐敗しないように集積できればハムスターにとって貴重な栄養源となります。ハムスターにはこれが本能として備わっているようです。

まず、どの個体もイナゴを餌と認識し、採餌行動を開始します。しかし、コオロギには反応しない個体があり、識別しているようです。

続いての行動に2つのパターンがあります。一方は胸部・私たちの延髄にあたる部位・カマキリが最初にかじる部位をかじり、イナゴの動きを止めて次のイナゴを待ちます。もう一方は、イナゴの後肢を奪い、場合によっては食べます。しかし本体を食べることは少なく、次のイナゴを待ちます。いずれにせよ、ハムスターの周りは完全に死んでいないイナゴの山ができることがあります(昆虫は腹節だけでもしばらく生存します。)。全国各校でこの2系統の純系を作り、交配させれば数少ない行動の遺伝の実証例となるでしょう。また、両者とも他の餌の場合と異なり、巣穴に運ぶようなことはしません。まずその場でためます。急に襲来し、急に去るイナゴの生態を考え、場合、いちいち巣穴に運ばないほうが効率がよいようです。

さて、この行動はなにが信号刺激となって始まるのでしょうか。生徒風に表現するなら、「性格が変わった」「キれた」がごとくハムスターの行動が変わります。本校科学部では行動の切り替え・採餌行動の開始にはイナゴの跳躍音が、イナゴへの攻撃行動(衝動?)には臭いに関係しているとの答えを仮定して研究中です。

年1回しか実験できないのがネックでしたので、現在イナゴから採卵し、通年培養にも挑戦しています。ただ、産卵時に長日条件にして年内の孵化に成功した子虫は、「無農薬」と表記のあった猫用のライ麦種子のポストハーベストにやられ、絶滅してしまいました。営巣の実験プリントに書いたように、せめて種子をお湯に短時間浸し、農薬を抜く必要があるようです。残った卵は、休眠中です。

いずれにせよ、この信号刺激の分析は課題研究に適していると思います。また、サソリの模型など、信号刺激探しも楽しいでしょう。

か。

では、何故彼らは蝗を食べないのだろう。蝗はレビ記(11:22)によれば唯一神の下された昆虫だそうで、それを単に殺虫剤で殺すだけでは神の許しに反しグォンピーッ

様達は原罪をかぶるまいか。

そういえば、復活祭だったか、神の復活前の苦しみを敬愛し、豈はものを食べないはず。では、弟子第一の座・信仰の厳たる、聖ペテロを慕っても良いはず。彼の食事は、

岩蜂の蜜と蝗だけだったと、マルコさんもマタイさんもおっしゃってる。敬虔なるグリッドゥス様達だけでもこれをまもらねば、 「さうなりますように」。

このようないぢわるな思いを抱かせる行動は、正論でもどこかゆがんでいるような気がするのは私だけでしょうか。

。リン。ース様にはついつい言いたくなる…。海獣類を食べない理由はバイブルに未記載で、神に敵された食べ物ではないため、それを食することは原罪に触れるからだと